

日本共産党埼玉県議団ほっとNEWS

NO. 31

2011年12月 12日 日本共産党埼玉県議団

新「埼玉県5か年計画」案審議の特別委に 共産党県議団も参加が実現！

8日付けでお知らせしていた新「5か年計画」案を審議する特別委員会に、少数会派も所属させるべきだという申し入れについて、議会運営委員会副委員長から、特別委員会の構成を20名にして、共産党に委員を一人割り当てる旨回答がありました。

県立小児存続の声があいつぐ 岩槻での県立小児医療センター —説明会

12月10日にさいたま市岩槻区の岩槻コミュニティセンターで開かれた県立小児医療センターの移転問題説明会に約70人の市民が参加し、センター存続を望む声が相次ぎました。

はじめに病院局経営管理課長や保健医療部医療整備課長からセンターの現状と建て替えの必要性やさいたま新都心8-1A街区の整備の経緯と開発のコンセプト等が説明され、会場からの質疑に答えました。

「さいたま市と合併したが、みんな良いものは岩槻から出て行ってしまう。地元の感情をどう考えているのか？」

「センターが岩槻にできたいきさつは、畑知事が県の東西南北に医療施設を整備するという事ではないか。新都心の開発がうまくいかないというので非常に安易な考えにたった移転計画ではないのか」など、次々意見が出されました。これに対して、県は「県議

会ではまだ計画段階なので趣旨採択ということになっている。まだ移転が決まったわけではない。」などと説明しました。

現センターの7分の1の土地に移転

「センターには車利用の人が多い。センターを利用している人にとってなんらのプラスもない。(新都心のセンター用地が)1ヘクタールだとすると現状の7分の1だ。そういう中で良い環境に恵まれた特別支援学校がつかれるとは思わない」

「新都心への移転となれば土地の負担だけで100億円と言われている。また、センターをつくるということで土地を提供した地権者たちはどうなるのだ」

「計画には病院がなくなったあとの穴埋めについては何も書かれていない。日本語の通じない外国人の子どもは今はセンターしか受け入れてくれない。」

など、存続を求める意見が圧倒的でした。

県は、高度医療を実現する、現地での建て替えは不可能と従来の見解を繰り返しました。

蓮田市の有志によって、デモ計画

12月17日(土)蓮田駅西口

8:00より集会後、デモで小児医療センターまで歩きます。

詳細別紙です。